

2025 年 8 月 29 日 第 3525 回例会

於： 横須賀商工会議所



<点 鐘・開 会> 12:30 山 下 会 長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *司法書士 松原 隆文 様

*横須賀・三浦作業所連絡会 社会福祉法人誠心会
働く家しらかば施設長 関口 己永 様

*元横須賀RC会員 毛利 邦彦 様

<ビジター紹介> *小田原ロータリークラブ 会 長 櫻井 泰行 様

* 〃 幹 事 大森 大 様

* 〃 SAA 麻薙 恭子 様

* 〃 副SAA 山田 敏樹 様

*横須賀北ロータリークラブ 福嶋 義信 様

<バナー交換>

<会 長 報 告> *第1グループ会長・幹事会/第2回理事役員会 報告

*ガバナー事務所から

・地区大会記念親睦ゴルフコンペ登録のお願いについて

日 時：11月26日(水) 受付6:45から

場 所：レイクウッドゴルフクラブ(中郡大磯町黒岩169)

参加募集：208名(52組) 参加資格：ロータリー会員及びそのご家族限定

プレー費：22,100円(諸経費・利用税込) 参加費：4,000円

競技方法：新ペリア方式 ダブルパーカット ハンディ上限36

<幹 事 報 告> *ガバナー月信 No. 2

*9月7日(日) 地区大会送迎バスについて

<出 席 報 告> *出席委員会 浅葉委員から8月29日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM 出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
112名	104名	73名(3名)	31名	3名	73.08%

メイクアップ：小山(美)、鈴木(孝)、高橋(隆) 各会員 理事役員会出席

<ニコニコ報告>

・小田原ロータリークラブ 櫻井会長、大森幹事、麻薙SAA、山田副SAA

本日はよろしくお願い致します。

・横須賀北ロータリークラブ 福嶋義信様 お世話になります。

・三 役 司法書士 松原隆文様 本日はようこそお越し下さいました。我々地元民でも知っているようで知らない、小栗忠順42年の壮絶なる人生。今日は先生のお話を聞きたさに、今朝インドより到着後、成田よりこちらへ直行した会員もいるほどです。本日の卓話楽しみにしております！

・梶 木、秋 葉、八 巻、梁 井、萩 原、杉 浦、植 田、上 林、江 口、浅 葉、
谷、井 上、前 田、小山(嶋)、田 邊、長 尾、徳 永、波 島、澤 田、江 沢、森、
杵 渕、土 田、齋藤(備)、平 松、三 堀、濱 田、笠 木、藤 村、八 木 各会員

司法書士 松原隆文様、横須賀・三浦作業所連絡会/社会福祉法人誠心会 働く家しらかば施設長 関口己永様、元横須賀RC会員 毛利邦彦様、ようこそお越し下さいました。例会をお楽しみください。松原隆文様におきましては卓話よろしくお願い致します。

・三 役 横須賀・三浦作業所連絡会/社会福祉法人誠心会 働く家しらかば施設長 関口己永様 本日はようこそお越し下さいました。どうぞロータリークラブの例会をお楽しみください。

- ・三 役 小田原ロータリークラブ 会長：櫻井泰行様、幹事：大森 大様、SAA：麻薙恭子様、副SAA山田敏樹様、横須賀北ロータリークラブ 福嶋義信様、本日はようこそ横須賀ロータリークラブへお越し下さいました。心より皆様を歓迎申し上げます。どうぞ私どもの例会をごゆっくりお楽しみください。
- ・秋 葉、八 巻、植 田、北 村、角 井、佐久間、
三 井、野 坂、濱 田、新 倉、八 木、吉田 〇 各会員
小田原RC会長：櫻井泰行様、幹事：大森 大様、SAA：麻薙恭子様、副SAA：山田敏樹様、横須賀北ロータリークラブ 福嶋義信様、暑い中ようこそお越し下さいました。例会をお楽しみください。
- ・中 村 会員 入会月祝いとして
- ・中 村 会員 お久しぶりです。今週はクリニック夏休み！例会に出席できました。何と1年（多分それ以上）ぶりです。宜しくお願いします。
- ・木 村、加藤 〇、齋藤 〇、大野 〇、萩 原、植 田、北 村、権 田、真 野、
竹 株、小林 〇、松本 〇、池 田、齋藤 〇、濱 田、八 木、物 井、椿 各会員
8月14日に富士スピードウェイで開催された10時間耐久レースK4・GPにて木村会員の所属するチーム・イメージが見事総合優勝されました。昨年に続く2年連続優勝です。ホームページのトップページにレース車両が採用されるなど今後の活躍が楽しみです。おめでとうございます。
- ・木 村、石 田、鈴木 〇、松 川、柴 田、齋藤 〇、比 護 各会員
まだまだ暑い日が続きます。今日は日付通りの焼肉の日だそうです。美味しいお肉を食べて酷暑、猛暑に耐えるスタミナを付けましょう。夏バテをしないよう体調管理には十分気を付けてください。

<卓 話> 「小栗忠順 日本の近代を先駆けた男」

司法書士 松 原 隆 文 様

再来年のNHKの大河ドラマの主人公は小栗忠順だという。それを聞いて大きな感慨を禁じ得ない。私が若い頃は小栗の評価は否定論が圧倒的であった。五十年も経つとこんなに変わるものなのか？小栗の評価が否定的であった最大の理由は、例の借款のせいであろう。外国から金を借りてまで幕府の延命を図った男ということだ。石井孝博士なども小栗の能力を高く評価しながらも「買弁的徳川絶対主義」と評している。買弁とは外国資本に追従し、自国の利益を損なう行為であるから、煎じ詰めれば小栗は売国的な人物ということになる。彼は兵庫商社の設立を企て、兵庫開港後三年もすれば、100万両の関税収入が見込まれていた。だから返済の目途がある借款だったと言える。これを単純に買弁と決めつけるのはあまりにも短絡的ではないか？という考え方が今日の歴史家に徐々に浸透してきたのであろうか。ここで彼の生涯を語るほどの知識は持ち合わせていないが、思いつくままに少しだけ述べてみたい。徳川幕府はその最末期になると、親仏幕権派が台頭してきた。そのメンバーは小栗忠順、栗本銀、向山一履、平山忠敬等である。彼らは等しく優秀で実務能力に長けていた。また徳川絶対主義を貫くという点で守旧派の支持も得やすかった。最末期の幕府をリードしたのは、革新官僚とも言うべきこれら親仏幕権派の面々であった。そしてその中心が実に小栗忠順であった。彼は関東の行財政改革を一身に担っていたが、その政治構想は、徳川



勢力によって日本を統一し、全国を郡県制にするというものである。だから必然的に雄藩連合やその発展形とも言うべき公議政体論とは相容れないものであった。また、王政復古により朝廷を担いで幕府を倒し、日本を近代化しようとする薩摩長州を中心とする討幕勢力とは、敵対関係になることが必然であった。要するに明治維新は、これら二大勢力による日本近代化の主導権争いと言って差し支えない。当時の福沢諭吉も、王政復古などではなく「大君のモナルキ」によって日本を近代化すべきであると述べていた。彼の政策は後の明治政府が行ったことを先駆けていると言って良いが、幕府が瓦解したため、ほとんどがご破算となった。彼の現代まで続く目に見える遺産は横須賀の軍港である。フランスのヴェルニーが、ツーロン港に地形が似ているということで横須賀を選んだ。また、他の国よりも遙かに低額の建設費を提示したため、フランスに発注したものである。横須賀港は、幕府が崩壊した後も明治政府に引き継がれ、大日本帝国海軍の鎮守府として大いに栄え、戦後も海上自衛隊の基地として今日に至るまで立派に機能している。だから小栗は三浦半島発展の恩人と言える。臨海公園に小栗とヴェルニーの胸像が建っているのは当然とも言えようか。

最末期の幕府は、急速に近代化政策を進めていたが、特に陸軍の近代化が急務であった。しかし極度の財政難に喘いでいた幕府は、常備軍を整備する財政面でのゆとりがなく、小栗はそれを解決する手段として借款に頼る道を選んだ。これが後世の歴史家に叩かれているのだ。しかし小栗は借款の返済について、ある程度の自信があったのではなかろうか？その切り札が兵庫開港であった。筆者は兵庫開港問題を何度も取り上げているが、幕府にとってこの兵庫開港こそが、自らの手による日本近代化の切り札であったと言える。兵庫開港問題については私のブログを見て頂ければと思います。さて肝心の借款はどうなったであろうか。結論から言えば不調に終わったのである。これにはいくつかの原因が考えられる。パリ万博で幕府は様々な出品をして、日本文化を紹介した。しかし何とその隣の一角では、薩摩が「薩摩琉球国」と名乗って薩摩の物品を紹介したのだ。更に薩摩は「幕府は日本政府ではない」とパリの新聞に書き立て、幕府の正統性を疑わせるキャンペーンを行った。意表を突いたといえればそれまでだが、日本の政争を遠いパリまで持ち込む、正に、成り振り構わぬえげつない行為と言えようか。薩摩は何としても借款を阻止したかったのであろう。幕府にとって不幸だったのは、フランスがメキシコ干渉に失敗したことである。日本に理解のある外務大臣は更迭され、対外政策慎重派の大臣が就任した。第二帝政は明らかに下り坂となり、対外政策は縮小され、日本への肩入れに及び腰となった。

この借款の構造は複雑で未だ解明されていない。分かっているのはフランスが直接幕府に資金を供与するのではなく、フランス輸出入会社を設立し、そこから資金を提供する予定であったらしい。しかし、当時ヨーロッパ全体が不況に陥り、資金が集まらず会社の設立が思うように進まなかった。幕府は状況打開のため栗本銀を特使として送り込み、蝦夷地の海産物の開発権を担保に借款を進めようとしたが結局頓挫したのである。ところでこの借款計画は秘密契約であった。幕府は瓦解時に全ての文書を処分したので、日本側には何も残っていない。フランスはソシエテ・ジェネラル銀行が主力であったが、158年経った今でも議事録を公開していないので、この条約は謎のままだ。この借款が最終的に破談したのは慶応3年12月である。しかし慶喜は逸早くこの状況を知っていた。それは駐英国公使格の向山が、慶応3年7月15日にロンドンから小栗に電報を打ったからである。「クーレーより金あらず。直ちにオリエンタルバンクから為替組むべし！」とである。600万ドルの借款契約をしたフランス側の当事者は、このクーレーであった。徳川昭武のフランス駐留費についても「何の心配もない」と豪語していた彼が手のひら返しをして、民部卿(昭武)の滞在費が底を尽きつつあった。オリエンタルバンクから滞在費用を振り込んで欲しいという電報であった。筆者は、小栗そして慶喜が、何時借款の不調を知ったのか、なかなか分からなかったが、数年前「小栗日記を読む」という書籍を購入し、そこに上記の電報のことが記されていた。船便では数十日掛かるであろうが、電報だと筆者の想像では、ロンドンからカサブランカ、カイロ、テヘラン、カルカタ、ボンベイ、サイゴン、上海経由で江戸に着くとして数日であろうか？この当時電報があったとは、驚きである。討幕勢力との軍事衝突の危機が高まる中で、借款が不調に終わったことは、徳川勢力による日本統一を目指した幕府には大きな痛手であった。慶喜が内乱防止のため、大政奉還に打って出た大きな要因になったと考える。最後に皆様、歴史小説や歴史ドラマを楽しむのは良いのですが、それらはあくまでフィクションであり、事実ではないのです。NHKの大河ドラマも、水戸黄門と本質的に同じです。是非、歴史の真実に興味を持って頂きたいです。そこには小説などでは到底味わえない大きな感動と共感を得ることができます。

※内容を省略して記載しております。全文及び兵庫開港問題をお読みにになりたい方はこちらをご覧ください

→<https://cugcocco.hatenablog.com/>

<閉会・点鐘> 13:30 山下 会長

週報担当 松川 太郎



小田原ロータリークラブ 櫻井会長とバナー交換